

今日のあなたに

一番知ってほしい話をします。

臨床医からのメッセージ

1980年代前半—HIV陽性の患者さんに残された時間、折ることしかできなかった頃のよです。治療の進歩によりHIV感染した患者さんは治療薬で健康を管理しながら日々の生活を維持できるようになりました。治療を適切に受けられる仕組みも整いました。お仕事を進め、結婚も他の人と同じにできますし、お子さんを持つ方も増えました。しかし、ひとつ課題があります。患者さんが健康であり続けるためには早期の診断が重要です。早く気づけた人は、大切なパートナーや家族への感染を防ぐことができます。しかし、機会ながら日本では自分で検査を受けるきっかけがなかなかないようです。私は臨床医として多くの人に検査を勧めています。そして、たずねています。「コンドームを使わない性交は今までにありましたか?」HIV検査は「陽性かもしれない」から受けるのではなく、今、陰性であることを確認して、今後の健康管理に生かすためにも重要です。

青木 眞

東京感染症専門医、東京医科大学の1984年よりHIV感染に関する、研究、発症、検査、治療、国立感染症研究所センターが、HIV感染センター設立以来、国立感染症研究所、感染症の診療に携わっています。現在は、がん・感染症センター・国立がん研究センター、新習東洋フロンティアにて感染症専門外来の診療を担当。オランダ・ワグeningenにて感染症専門外来の診療のための感染症診療マニュアル(医学書)「Learning」(臨床感染症診療)「マニュアル」(医学書)を執筆。

臨床医として皆様にご活用いただきたい情報です。検査結果、1週間程度待って、専門スタッフで検査結果を告知いたします。検査結果が陽性の場合、医師と相談して適切な治療を開始し、生活習慣の改善も大切です。

「HIV検査のタイミングとコツ」
HIV検査を受ける際のポイントをご紹介します。

「HIV検査-相談マップ」
HIV検査を受ける際の相談先をご紹介します。



東京医科大学
青木 眞 氏

診断薬メーカーからのメッセージ

HIV感染者は日本国内でも増加中です。1日に4人以上の人がHIV陽性と診断されています。特に、コンドームを使用しない異性間の性行為による感染が増えています。「過去に使わなかったのがあったなあ」という方、新しい出会いを見つけた方、これからお子さんを持つ計画のある方は、ぜひHIV検査を受けて下さい。HIVに感染していることを知るのも、感染していないことを知るのも検査です。現在、医療技術の進歩により、HIV検査の性能も非常に向上しています。HIV検査はあなたと、あなたの大切な人の未来を守る検査です。

アポット ジャパン(株)と HIV感染症(エイズ)

米国Abbottは、1985年に日本で初めてHIV感染症の検査薬を開発・販売しました。アポットジャパンは発売から25年の間、ユーザーサポートとして重宝される検査薬で総合的に取り組んでいます。検査結果より早く知ることが、また感染していない人が安心して検査を受けられるように、アポットジャパンはHIV検査の性能向上に常に取り組んでいます。また、全国の医療機関を中心に検査薬を提供するなどHIV感染の正しい知識の普及、HIV検査の大切さについての啓発活動にも力を注いでいます。日本は先進国の中で少ないHIV感染者が増加している国です。エイズを発症してから受かるまでかかるエイズが多いため、検査が必要です。この状況を改善するためには一人ひとりがHIV検査を受けることであると考えています。またそのためには一人ひとりがHIV感染に対する正しい知識を持つ必要があると思います。より信頼できる検査薬の提供、HIV感染に対する正しい知識の普及、検査の普及、それが私たち診断薬メーカーの使命であると考えています。



アポット ジャパン(株)
池田 敬 夫 氏

(社)日本臨床衛生検査技師会からのメッセージ

HIV(エイズウイルス)検査を受けたことがある人はまだあまり多くありません。あなたはHIV感染症の検査を受けたことがありますか? あなたはHIV感染症に対する偏見や誤解はありませんか? HIV感染症は身近な疾患です。誰が、いつ、どこで感染してもおかしくない性感染症です。HIV感染症を早く見つけることができれば、普通の生活を送ることもできます。また大切な人への感染を防ぐこともできます。大切なことは検査を受けることです。わずかな検査費用で検査ができます。検査は専門的な知識を持った臨床検査技師によって適切に行われます。どうか安心して検査を受けていただきたいと思います。

(社)日本臨床衛生検査技師会と HIV感染症(エイズ)

日本臨床衛生検査技師会では、エイズ(AIDS)が「慢性免疫不全症候群」と呼ばれていることから、検査で特異な抗体を認めると感染に切り込んだります。当時はまだ国内にHIV感染症/エイズに対する偏見・誤解が横行していた時代です。感染者に同僚者が多かったことから感染者に対する性的な偏見が横行していました。偏見、異性間性行為や子ども感染も起こり得る事を知れるようになり、正しい認識の問題として受け止める重要性が明らかになりました。日本臨床衛生検査技師会は、今年も、各都道府県の技師会を通して、街頭キャンペーンや無料検査の実施など、HIV感染症/エイズへの正しい理解を呼びかける啓蒙・教育活動を精力的に行っています。それが検査の必要性・重要性をより知る私たちの使命であると考えているからです。



(社)日本臨床衛生検査技師会
高田 欽也 氏

12月1日は、世界エイズデー。
あなた自身はもちろん、大切なパートナーやこの国に暮らすたくさんの人々の未来を守るために、HIV感染症/エイズについて考えていただきたい日です。

